

5. ライフステージ別分析について

県民の皆さんの意識やニーズは、年齢や家族構成、子どもの年齢などのライフステージによって大きく異なります。そのため、全体のみを把握するのではなく、ライフステージ別に分析を行うことで、それぞれの層が抱える課題や求めている施策をより具体的に把握し、効果的な県政運営の推進に役立てます。

ライフステージの区分と区分の設定条件

項目	質問文の概要
若者	18～29 歳で、「夫婦のみの世帯」以外の世帯（うち「未婚」または「離婚・死別」で、子どもがいない世帯）の回答者
独身	30～64 歳で、「夫婦のみの世帯」以外の世帯（うち「未婚」または「離婚・死別」で、子どもがいない世帯）の回答者
夫婦のみ	18～64 歳で、「夫婦のみの世帯」（うち子どもがいない世帯）の回答者
育児期	末子の学齢が小学校入学前の子どもがいる世帯の回答者
教育期前期	末子の学齢が小・中学生・高校生・高専生の子どもがいる世帯の回答者
教育期後期	末子の学齢が専門学校生・短大生・予備校生・大学生（院生）の子どもがいる世帯の回答者
社会人期	末子の年齢が社会人の子どもがいる世帯の回答者
単身高齢者	65 歳以上の単身世帯の回答者
高齢者夫婦	65 歳以上の「夫婦のみの世帯」の回答者

5.1 子育てと仕事を両立する上で必要だと思う対策について

問5 あなたは仕事と子育てを両立する上で何が重要だと思いますか。

(〇はいくつでも)

○ 仕事と子育てを両立する上で何が重要だと思うかについて、全体では「保育所等の柔軟な利用制度（時間延長、土日保育、長期休暇中の学童など）」の割合が 58.3%で最も高く、次いで「育児休業や突発的な休暇を取得しやすい職場の雰囲気」（56.6%）、「パートナーの家事・育児への協力」（41.5%）となっていました。

ライフステージ別でみると若者、夫婦、育児期、教育期前期・後期の方は「育児休業や突発的な休暇を取得しやすい職場の雰囲気」が最も高くなっており、特に育児期、教育期前期の方の割合は全体より 10 ポイント以上高くなっています。

また、若者、夫婦、育児期の方は「短時間勤務やテレワークなど柔軟な働き方」の割合も全体よりも 10 ポイント以上高くなっています。

育児期の方は全体よりも割合が 5 ポイント以上高い項目が 7 項目と最も多く、様々な対策を必要としている様子が見えます。

図表 2-5-1 子育てと仕事を両立する上で必要だと思う対策（ライフステージ別）

合計欄は回答数（n）、選択肢欄は回答割合（%）

	合計	保育所等の預け先の定員の拡大	保育所等の柔軟な利用制度（時間延長、土日保育、長期休暇中の学童など）	保育所等の利用に係る負担軽減（通園グッズの軽減、長期休暇中の配食など）	短時間勤務やテレワークなど柔軟な働き方	育児休業や突発的な休暇を取得しやすい職場の雰囲気	パートナーの家事・育児への協力	家事代行サービスの利用に対する支援	両立を実現するための自身のライフデザイン形成に対する支援	地域での支え合いの場の充実（子ども食堂、交流会など）	気軽に相談できる場の充実	その他	不明
全体	5,130	41.0	58.3	30.3	40.2	56.6	41.5	14.0	13.1	19.8	26.6	4.6	6.6
ライフステージ別	若者	237	45.1	54.4	32.9	57.0	65.0	48.1	13.5	19.8	25.3	3.0	0.8
	独身	479	45.1	59.3	32.8	49.7	54.5	42.2	18.8	15.0	23.8	6.5	2.1
	夫婦	196	44.9	58.2	34.2	58.2	62.8	50.5	22.4	21.9	25.5	6.6	1.5
	育児期	291	50.2	62.9	43.0	67.5	70.4	47.4	22.3	18.6	15.8	17.5	0.0
	教育期前期	609	36.0	60.1	33.8	49.4	68.6	49.6	16.6	16.7	16.7	22.5	0.3
	教育期後期	119	40.3	57.1	27.7	47.9	65.5	52.7	12.6	16.0	16.8	21.0	0.0
	社会人期	1,209	42.8	58.4	29.6	31.8	55.2	38.8	10.6	10.8	19.6	28.3	4.1
	単身高齢者	329	29.5	46.8	23.1	27.4	40.7	36.8	10.9	9.7	21.3	24.9	3.0
	高齢者夫婦	761	37.7	62.2	28.0	31.7	51.6	34.4	11.7	10.1	18.1	26.0	4.2
	非該当・無回答	900	41.8	56.9	26.7	36.0	52.4	40.0	13.0	10.7	19.9	27.0	3.9

※本質問の回答割合（%）は、「不明（未記入など）」も分母に含めて算出

5.2 人口減少対策について

問 8 これからのことについてお聞きします。人口減少・少子高齢化が進行することで懸念することはどのようなことですか。

(〇は3つまで)

○ 人口減少・少子高齢化が進行することで懸念することについて、全体では「地域公共交通（路線バス、鉄道等）の撤退・縮小が進む」が49.2%で最も高く、次いで「空き家、空き店舗、工場跡地、耕作放棄地等が増加する」(49.1%)、「住民組織（自治会、消防団、地域の祭り等）の担い手が不足し、地域コミュニティの機能が低下する」(41.8%)となっていました。

ライフステージ別でみると、若者、育児期の方では「人手不足などによって、行政サービスの水準が低下する」が最も高く、割合も全体より10ポイント以上高くなっています。

社会人期、高齢者夫婦の方は「空き家、空き店舗、工場跡地、耕作放棄地等が増加する」が最も高くなっています。

単身高齢者の方は「住民組織（自治会、消防団、地域の祭り等）の担い手が不足し、地域コミュニティの機能が低下する」が54.4%と最も高く、割合も全体より10ポイント以上高くなっています。

図表 2-5-2 人口減少・少子高齢化が進行することで懸念すること（ライフステージ別）

合計欄は回答数（n）、選択肢欄は回答割合（％）											
		合計	人手不足などによって、行政サービスの水準が低下する	地域公共交通（路線バス、鉄道等）の撤退・縮小が進む	生活関連サービス（小売・飲食）の縮小が進む	医療サービスの縮小が進む	空き家、空き店舗、工場跡地、耕作放棄地等が増加する	住民組織（自治会、消防団、地域の祭り等）の担い手が不足し、地域コミュニティの機能が低下する	その他	懸念していることはない	不明
全体		5,130	39.6	49.2	25.9	34.3	49.1	41.8	2.6	1.8	3.4
ライフステージ別	若者	237	54.4	50.2	34.2	24.9	30.8	30.4	3.0	4.6	1.3
	独身	479	49.9	55.5	35.9	35.9	46.6	30.1	2.5	2.1	1.0
	夫婦	196	46.9	50.5	27.6	40.8	46.9	32.1	2.6	1.5	1.0
	育児期	291	56.7	41.9	29.2	34.0	42.6	32.3	5.2	1.4	0.7
	教育期前期	609	43.8	51.1	28.4	41.9	42.0	35.6	3.6	1.8	1.8
	教育期後期	119	43.7	58.0	21.8	45.4	45.4	31.9	4.2	0.0	3.4
	社会人期	1,209	35.2	46.7	22.1	34.5	51.9	48.4	2.2	1.6	4.7
	単身高齢者	329	32.5	42.9	26.4	24.0	53.2	54.4	1.8	2.7	4.3
	高齢者夫婦	761	30.7	48.9	22.5	33.8	58.1	53.9	1.1	0.9	4.2
	非該当・無回答	900	35.9	51.4	23.8	32.1	50.0	37.9	2.8	1.8	5.1

※本質問の回答割合（％）は、「不明（未記入など）」も分母に含めて算出

5.3 ジェンダーギャップの解消について

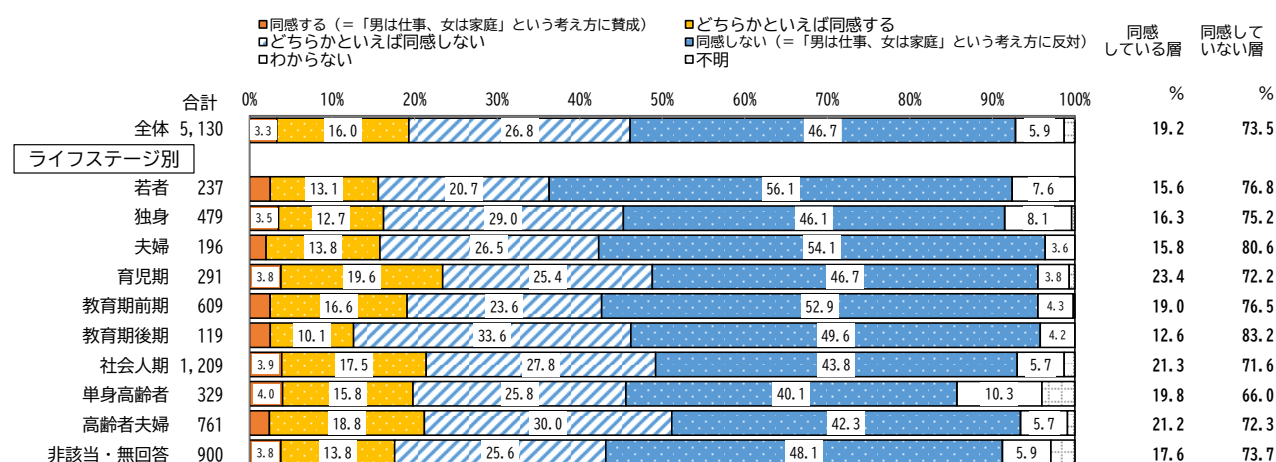
問 11 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

○ 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思うかについて全体では、「同感しない層」の割合が73.5%で、「同感する層」の割合（19.2%）より54.3ポイント高くなっていました。

ライフステージ別でみると「同感する層」は育児期が23.4%で最も高く、「同感しない層」は教育期後期が83.2%で最も高くなっていました。

教育期後期の方は「どちらかといえば同感しない」が、夫婦、教育期前期の方は「同感しない（＝「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対）」が全体よりも5ポイント以上高くなっていました。

図表 2-5-3 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思うか（ライフステージ別）



※本質問の回答割合（%）は、「不明（未記入など）」も分母に含めて算出